

新聞報道集

新 聞 報

初の原発議会サミット

全国から300人以上参加

柏崎で 開催 原子力の信頼回復訴える

東京電力柏崎刈羽原発の事故完成を機に、原発を立地・計画している各地の議会が原子力と地域の問題について議論を深めようという初の全国原子力発電所立地議会サミット(同立地市町村議会議長会主催)が八日から産文会館で始まり、二日の九日昼までに記念講演、基調講演が次々行われた。参加は、北海道から鹿児島まで二十九市町村議会の議員と電力関係者約三百三十人。初日開会式のあいさつ・祝辞では、原子力に対する国民の信頼回復の必要性が繰り返し訴えられた。サミットは十日までの三日間の予定で、二日午後には五会場に分かれて分科会に移った。



歓迎 全国原子力発電所立地議会サミット

全国原子力発電所立地議会サミットの開会式。主催者を代表して立地議会議長会会長の高橋長究・柏崎市議会議長があいさつ＝8日午後、産文会館文化ホールで

開会式で議長会会長として、あいさつした本市の高橋長究議長は、「高速増殖炉『もんじゅ』の事故など、原子力は『厳しい環境下』にさらされている」とした上で、国民の理解と信頼を取り戻すこと、今回のサミットが「よい良い地城づくり」につながることを期待を表明した。また実行委員長の丸山敏彦前議長は、「地域のために原子力発電所の共生を目指したい」と訴えた。

来賓祝辞では、通産大臣代理の三代真彰・同省資源エネルギー庁原子力発電課長らも、や県の関係者が、エネルギー供給に占める原子力発電の役割を強調し、国民の信頼回復に努める考えを示した。地元西川市長と加藤刈羽市長は、サミット開催の意義を評価しながら、原発の安全運転と一層の地域振興を求めた。引き続いて、伊原義徳・原子力委員会委員長代理の祝辞が述べられ、柏崎からの呼び掛けに対して、原発集立地東・福井の四市町が議長会・サミットとも参加した。二日目は、原子力安全委員会専門員を務める近藤隆介・東京大学教授が「我が国の原

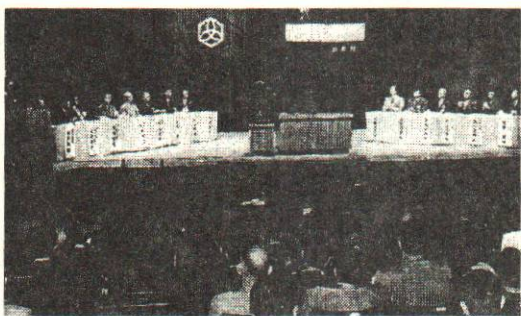
子力開発利用の道徳的課題、中島篤之助・元中央大学教授が「技術的転換を迫られる原子力開発政策と原子力技術の将来展望」のテーマで基調講演をした。近藤教授は、国民の合意を得てプルサーマル(既存原発のアルニウム利用)を導入し、将来の高速増殖炉開発へと進んでいく方向を解説。中島教授は、チェルノブイリ原発事故によって原子力技術が未成熟であることが示されたとし、プルサーマルはエネルギーの有効利用の点では賢明な方策でないと述べた。

この原発議会サミットは、柏崎市・刈羽村両議会の原発推進派議員が中心になって昨年からの準備を進めてきた。市議会では、態度を保留していた共産党が先月になって参加を表明したが、社会クラブは「柏崎原発完成の祝賀行事になる」などを理由に、また、柏崎からの呼び掛けに対して、原発集立地東・福井の四市町が議長会・サミットとも参加した。

【柏崎日報 平成9.7.9】

「立地の選択正しかった」 原発への賛美続く 「立地議会サミット」開幕

柏崎



国からの来賓らがずらり並んだ「全国原発立地議会サミット」開会式

「もし原発がなかったら、今日の日本の繁栄はなかった」。総出力世界一を達成した東電柏崎刈羽原発のおひさま・柏崎市内に、全国29市町村から250議員が結集して8日始まった「全国原発立地議会サミット」。初日は、登壇した関係者によるエネルギーとしての原発への賛美が続いた。プルサーマルなど多くの課題を抱えるなかでのサミットだが、丸山敏彦実行委員長があいさつで強調した「賛成、反対の立場を超えて」の言葉がさすむ扉を開けた。

開会式(サミット)では、「原子力は燃料供給面からも環境面からも欠かせないエネルギー」などと佐藤信二通産相らの祝辞が代読された。

一方、「世界一の祝賀行事となる」とサミットを欠席した反原発議員と団体はこの日朝、「プルサーマル閉会後は市民に納税いく脱明な」とのタイトルの新開折り込みを、柏崎市と刈羽・刈羽村、西山町の3方5000軒に配った。

「プルサーマル実施の被害はウランだけの時の10倍」という内容で、飯塚晴紀市議は「予定が突然変わった」などと説明。サミット実行委の桜井雅浩事務局長は「初音とも思える奇妙なサミット。意見があるなら、サミットに出席して堂々と発言すればいいの」と批判した。

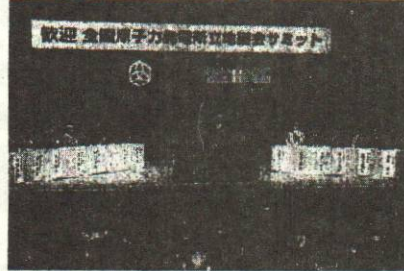
【鈴木 菜】

【毎日新聞 平成9.7.9】

柏崎で全国初 立地議会サミット

世界最大出力の東電電力柏崎刈羽原子力発電所がある柏崎市八日、全国原子力発電所立地議会サミットが開かれた。立地や予定地域の市町村議らが集まり、地盤振興や生活の安全確保という共通の課題に取り組み、情報交換などを通じて原発との共生を探るのを目指し、原発の推進派、反対派の各議員が参加しては、二日目のきょう九日行われる全体会の「宣言」内容が注目される。立地市町村の議員が、サミットを期へは全国で初めて。

原発との共生を探って開かれた全国初の全国原子力発電所立地議会サミット＝柏崎市産業会館



原発との共生探る

同日サミットの開催は、柏崎が述べられた。国の視座から見て、一連の事故を踏まえて、エネルギー政策の根幹として原発の必要性を訴える必要があり、四日、同日の二市町村並びに立地市町村議会議長、(代表)加賀が各理由に訴えている。

柏崎市議会議長は、全国的には、全国の二十九市町村から約三百人の議員が参加、無形文化財の「種子舞い」が披露された。高橋会長は「相次ぐ事故で原発を恐るべき議論は無いが、国民生活や産業の復興に原発は不可欠、原発の原則に立ち戻り共生を考えよう」とあいさつ。

続いて通産大臣、科学技術庁長官、全原発会長の河野一治・教育長、平山夫知事の祝辞(いずれも代

表)が述べられた。国の視座から見て、一連の事故を踏まえて、エネルギー政策の根幹として原発の必要性を訴える必要があり、四日、同日の二市町村並びに立地市町村議会議長、(代表)加賀が各理由に訴えている。

同日サミットは、全国的には、全国の二十九市町村から約三百人の議員が参加、無形文化財の「種子舞い」が披露された。高橋会長は「相次ぐ事故で原発を恐るべき議論は無いが、国民生活や産業の復興に原発は不可欠、原発の原則に立ち戻り共生を考えよう」とあいさつ。

続いて通産大臣、科学技術庁長官、全原発会長の河野一治・教育長、平山夫知事の祝辞(いずれも代

29市町村「安全確保」など情報交換

同日サミットの開催は、柏崎が述べられた。国の視座から見て、一連の事故を踏まえて、エネルギー政策の根幹として原発の必要性を訴える必要があり、四日、同日の二市町村並びに立地市町村議会議長、(代表)加賀が各理由に訴えている。

同日サミットは、全国的には、全国の二十九市町村から約三百人の議員が参加、無形文化財の「種子舞い」が披露された。高橋会長は「相次ぐ事故で原発を恐るべき議論は無いが、国民生活や産業の復興に原発は不可欠、原発の原則に立ち戻り共生を考えよう」とあいさつ。

続いて通産大臣、科学技術庁長官、全原発会長の河野一治・教育長、平山夫知事の祝辞(いずれも代

【産経新聞 平成9.7.9】

多い代議、不満あがる

全国原発議会サミット

柏崎

【朝日新聞 平成9.7.9】

柏崎市議会の有志が提唱して八日開かれた「全国原子力発電所立地議会サミット」では、原発の推進派、反対派の各議員が参加しては、二日目のきょう九日行われる全体会の「宣言」内容が注目される。立地市町村の議員が、サミットを期へは全国で初めて。

同日サミットは、全国的には、全国の二十九市町村から約三百人の議員が参加、無形文化財の「種子舞い」が披露された。高橋会長は「相次ぐ事故で原発を恐るべき議論は無いが、国民生活や産業の復興に原発は不可欠、原発の原則に立ち戻り共生を考えよう」とあいさつ。

続いて通産大臣、科学技術庁長官、全原発会長の河野一治・教育長、平山夫知事の祝辞(いずれも代

初の「原発議会サミット」開幕

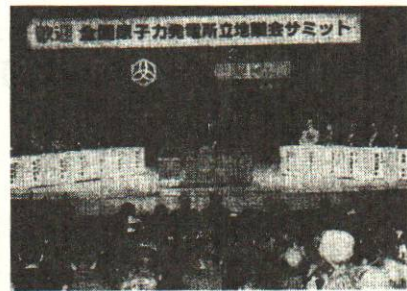
3日間の論議注目

講演や 反対派議員も参加

柏崎市で八日、「第一回全国原子力発電所立地議会サミット」が開かれた。地元の市議会の議員が、柏崎刈羽原発の完成を期して参加。原発推進派、推進派の両市町村の議員も参加。同日の二市町村並びに立地市町村議会議長、(代表)加賀が各理由に訴えている。

同日サミットは、全国的には、全国の二十九市町村から約三百人の議員が参加、無形文化財の「種子舞い」が披露された。高橋会長は「相次ぐ事故で原発を恐るべき議論は無いが、国民生活や産業の復興に原発は不可欠、原発の原則に立ち戻り共生を考えよう」とあいさつ。

続いて通産大臣、科学技術庁長官、全原発会長の河野一治・教育長、平山夫知事の祝辞(いずれも代



柏崎市で開幕した「原発議会サミット」

同日サミットは、全国的には、全国の二十九市町村から約三百人の議員が参加、無形文化財の「種子舞い」が披露された。高橋会長は「相次ぐ事故で原発を恐るべき議論は無いが、国民生活や産業の復興に原発は不可欠、原発の原則に立ち戻り共生を考えよう」とあいさつ。

続いて通産大臣、科学技術庁長官、全原発会長の河野一治・教育長、平山夫知事の祝辞(いずれも代

【電気新聞 平成9.7.9】

【読賣新聞 平成9.7.9】

議院 原サ

「全国民に議論を」 宣言 建設後の地域振興要望

柏崎市を会場に八日から始
まっていた全国原子力発電所
立地協議会サミット(同立地市
町村協議会議長主催)は九日
午後、産文会館を中心に分科
会と全体会を開いて、討議を
終えた。最後にサミット宣言
を採択し、エネルギー・環境
問題について全国民に議論を
投げかけたいとしたほか、
原発建設後の地域振興策
などを強く求めた。

分科会では「原発誘致の功罪
とポスト原発」「核燃料廃棄
物・核燃料・プルサーマル」
など五つのテーマで行われ、
多くの分科会で、原発による
地域振興が長続きしないこと
への不満が目立った。
特に原発誘致の功罪を論議
した第一分科会では、「一定
の経済効果はあった」と意
見が出た反面、「原発が出来
ても人口流出が止まらない」
「定期検査が短縮され雇用が
減っている」「償却資産税の
年限を伸ばしてほしい」(核

燃料税の地元市町村配分を」
り計画を立てて、国民の合意
を得てほしい」など、今後の
原子力政策をめぐって国への
「プルサーマルは国がしっか
り計画を立てて、国民の合意
を得てほしい」など、今後の
原子力政策をめぐって国への



全体会では各分科会の報告の
あ、宣言文の採案が行われ、
拍手でこれを承認した。その
中では、原発誘致で地域が豊
かき手に入れたことと、相
次ぐ事故で原子力と地域住民
との信頼関係が瓦解している
ことを指摘し、国への要望と
して①核燃料サイクルやプル
サーマルは議論を惜しまない
②地元の見解に耳を傾け、エ
ネルギー・環境について全国
民に議論を投げかける③建設
終了後の地域振興、防災計画
の整備など、多くの安心と理
解が得られる手法で政策を進
めるしなどを挙げた。
記者会見した議長会長の
高橋長興・柏崎市議長は
「大勢の議員が参加し率直な
意見交換が行われた、実行
委員長丸山康彦前議長は
「.....」

「おむね目的は達成できた
と評価した。
動燃再処理工場の事故を抱
える茨城県東海村から参加し
た小林健介議員は「各自治体
の状況が正直に反映され、い
ろいろ意見が出た。ただ本音
となると地域振興への不満が
多く、これから立地に向かう
自治体の参考になったかどう
か」と話していた。
最終日の十日は、参加者の
うち約百人が東京電力柏崎刈
羽原発を視察した。

【柏崎日報 平成9.7.10】

原発立地協議会
サミット

誘致の功罪浮き彫りに

ぶつかりあったホンネ

「ひびくすまのちかき言葉、村はリッチになった」いや、時間がた
てば「負の遺産」が残っていくんだ。――全最初の「原発立地協議会サ
ミット」(原発立地市町村協議会主催)の三日目、議員さんたちのホンネが
からあつた。比較的新しい原発立地市町村から来た議員は法交付金などの恩恵を
強調。一方、原発建設が時を奪い、多分金を奪りつつある市町村の議員は
「新機軸」と訴え、原発誘致の光と影が浮き彫りになった。

【永尾洋典 鈴木正広】

象徴的だったのは、柏崎
市産業文化会館で午後開か
れた市町村協議会。茨城県東
海村の井原一議員を議長
に「原発誘致の功罪」をテ
ーマにした。議員さんたちは
まず、地元・柏崎市の川
田東議員が「原発を誘致さ
せているが、今はまだ誘致
されたばかりで、どうすべきか」と質問を投げかけた。

東海村議長は「私のところ
には総額4億5000万円、普
通は2億程度の維持費に感
謝をあげている」と反論。
「誘致して20年経つと、普
通は2億程度の維持費に感
謝をあげている」と反論。
「誘致して20年経つと、普
通は2億程度の維持費に感
謝をあげている」と反論。

この日は料金に入る前
の分科会が先で、議長が
「法交付金の見直し」が
テーマの第一分科会は、
「誘致して20年経つと、普
通は2億程度の維持費に感
謝をあげている」と反論。

議員のホンネがぶつかりあった原発サミット分科会



議員のホンネがぶつかりあ
った原発サミット分科会
「誘致の功罪とポスト原発」
をテーマにした。議員さん
たちはまず、地元・柏崎
市の川田東議員が「原発を
誘致させているが、今はま
だ誘致されたばかりで、ど
うすべきか」と質問を投げ
かけた。

注意の事項 主権の伸張 問題の解決



朝鮮の主権伸張 問題の解決

朝鮮の主権伸張問題の解決は、朝鮮民族の自覚と団結に依るべきである。朝鮮民族は、長い歴史を通じて、独自の文化と政治体制を築き上げてきた。しかし、近代以降、列強の侵略と支配に遭い、主権を喪失した。この状況を打開するためには、朝鮮民族が自らの運命を自ら決定する権利を行使し、主権を伸張する必要がある。

このためには、まず民族意識を高め、団結を強めることが不可欠である。民族意識とは、自らの民族としての誇りと責任感を自覚することであり、団結とは、民族の利益を共同で守るための結束である。これらが実現されれば、朝鮮民族は、自らの主権を伸張し、国家の主権を回復することができる。



朝鮮民族の自覚と団結

朝鮮民族の自覚と団結は、朝鮮民族の歴史と文化に根ざしている。朝鮮民族は、長い歴史を通じて、独自の文化と政治体制を築き上げてきた。しかし、近代以降、列強の侵略と支配に遭い、主権を喪失した。この状況を打開するためには、朝鮮民族が自らの運命を自ら決定する権利を行使し、主権を伸張する必要がある。

このためには、まず民族意識を高め、団結を強めることが不可欠である。民族意識とは、自らの民族としての誇りと責任感を自覚することであり、団結とは、民族の利益を共同で守るための結束である。これらが実現されれば、朝鮮民族は、自らの主権を伸張し、国家の主権を回復することができる。

朝鮮民族の自覚と団結は、朝鮮民族の歴史と文化に根ざしている。朝鮮民族は、長い歴史を通じて、独自の文化と政治体制を築き上げてきた。しかし、近代以降、列強の侵略と支配に遭い、主権を喪失した。この状況を打開するためには、朝鮮民族が自らの運命を自ら決定する権利を行使し、主権を伸張する必要がある。

このためには、まず民族意識を高め、団結を強めることが不可欠である。民族意識とは、自らの民族としての誇りと責任感を自覚することであり、団結とは、民族の利益を共同で守るための結束である。これらが実現されれば、朝鮮民族は、自らの主権を伸張し、国家の主権を回復することができる。

朝鮮民族の自覚と団結

朝鮮民族の自覚と団結

朝鮮民族の自覚と団結は、朝鮮民族の歴史と文化に根ざしている。朝鮮民族は、長い歴史を通じて、独自の文化と政治体制を築き上げてきた。しかし、近代以降、列強の侵略と支配に遭い、主権を喪失した。この状況を打開するためには、朝鮮民族が自らの運命を自ら決定する権利を行使し、主権を伸張する必要がある。

このためには、まず民族意識を高め、団結を強めることが不可欠である。民族意識とは、自らの民族としての誇りと責任感を自覚することであり、団結とは、民族の利益を共同で守るための結束である。これらが実現されれば、朝鮮民族は、自らの主権を伸張し、国家の主権を回復することができる。